

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1690900061		
法人名	(株)ガーデン		
事業所名	イエローガーデン小矢部		
所在地	富山県小矢部市観音町5番44号		
自己評価作成日	平成31年2月22日	評価結果市町村受理日	令和元年11月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/16/index.php?action_kouhou_detail_2018_022_kihon=true&JigvoCd=1690900061-00&PrefCd=16&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人富山県社会福祉協議会		
所在地	富山県富山市安住町5番21号		
訪問調査日	平成31年3月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

この春で開設してから8年になります。隣接された保育園や学童保育、石動中学校からは元気に活動されている子ども達の声が毎日聞こえてきます。また、近くには城山公園があり桜をはじめとする四季折々の景観がうかがえます。このように恵まれた生活環境の中で、家族・親族に限らず近所の方々やボランティアの訪問を受け入れ、貴重で楽しい交流の場となるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・人材確保に取り組んではいれるものの採用が厳しい状況の中において、管理者が中心となり職員の要望、課題を把握するために全職員にアンケートを実施した。また、計画作成担当者が講師となり内部研修を実施するなど、ライフワークバランスと質の向上に努めている。そのような取り組みもあり、職員同士の円滑な情報共有やチームワークの良さがヒアリングからも伺えた。
 ・利用者の健康管理と自立支援を目指すために、『ライフチャート』という独自の情報活用シートを作成し活用している。特に水分補給は、時間帯によって摂取量を記載するマーカー色を変え、視覚から情報が速やかに得られるよう工夫している。排泄支援の記録も同じシートに記載し、排泄の自立に向けた支援が実践されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	①人権の尊重 ②家庭的な雰囲気づくり ③自然とのふれあい ④地域住民との交流を図る の4つの理念を管理者を中心として全職員が理解し、介護サービスを行っている。	法人全体の福祉サービス基本理念、①人権の尊重②家庭的な雰囲気づくり③自然とのふれあい④地域住民との交流を図る、を掲げ職員に意識づけしながら暮らしに照らし合わせながら支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	恒例となっている近隣の保育園の園児達の訪問により、園児たちとの交流を楽しみにされている。また毎年5月には近所の祭りでの獅子舞の訪問も楽しみにされている。	町内会に加入し、回覧板などから地域情報を得ることが出来ている。隣接した保育所とは、定期的な交流活動が展開されている。また、散歩では、住民と互いに挨拶を交わすなどふれあう機会も持たれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症についての理解や支援方法を相談窓口として地域の人々に向けて活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	共有スペースの掲示物や、季節ごとの施設内行事、施設内での職員研修等の要望や意見があった。会議終了後、職員には口頭にて伝え、サービスの実施に取り組んでいる。	運営推進会議は、市職員、利用者家族代表、自治会長、民生委員、相談役などの協力により2ヶ月毎に定期開催されている。出席者の意見は、議事録として作成され、施設運営にも反映され、職員の質の向上や、利用者の暮らしに活かされている。	定期的に出席者と職員で現状や具体的な改善課題などについて検討が重ねられている。これらの内容(議事録)を利用者やご家族などに届け、より暮らしについて関心が高まることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村主催の研修(嚙下について、他職種連携の事例研修)に参加し、意見交換や情報収集を行った。また、小矢部市健康福祉課の方より冬季期間の感染症予防として面会の制限や手指消毒、マスク着用等の助言を頂いた。	市職員(地域包括支援センター)が、運営推進会議に出席し、積極的に現状を把握し暮らしについて検討や提案を行っている。事業所も保険者からの連絡を職員に回覧したり、研修などにも可能なかぎり参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員を対象に、身体拘束に関わるアンケートの実施を行い、研修会と意見交換の場を持ち、身体拘束に関する正しい知識の理解に取り組んだ。	身体拘束と虐待についてのアンケートを全職員に実施、数値化して職員の意識と課題について明確にしている。その上で、事例を用いて人権や意向を尊重しつつ、安全や安楽な暮らしの支援について検討し、反映するよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員を対象に虐待防止アンケートの実施を行い、事業所内での研修会において、正しい知識と理解を深め虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の中で、玄関の鍵や各ユニットの施錠をせず、利用者が自由に行動できるような環境になっている。常に職員は声掛けするなどをして見守りに努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者・ケアマネジャーの2名が中心となり、複数で対応している。納得いただけるよう丁寧な説明に徹している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からは常時、ご家族からは面会時に各フロアの職員がご意見や要望を聞くように努めている。管理者は職員からの報告を受け、家族や利用者とは直接話している。	利用者からは暮らしの中の様々な場面で、聞いたこと、話すこと、汲み取ったことを職員が共有し、サービスに繋げるよう心掛けている。家族などへは、面会や受診の機会を利用して意向を伺っている。	運営推進会議への参加を、家族代表に限定することなく、積極的に家族へ呼びかけ、実状を具体的に伝え、より多くの意見や要望を引き出し、運営に反映することを望みたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、フロアミーティング等にて意見を求めている。職員一人ひとりの意見を把握し、協議した上で業務に活かしている。	利用者対応、職場関係、業務、健康面などの内容について、職員にアンケートを実施している。集計結果を踏まえて改善に向け話し合い、その内容を代表者に報告し、運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に管理者は代表者と連携を取り、雇用関係については心身ともに働きやすい職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力に応じて、管理者は代表者と相談しながら、事業所外の研修参加や資格取得の機会の確保や啓発に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内の同系列の事業所から派遣された、職員と介護技術の見直しや、情報交換の場を設け相互の支援内容を振り返っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人の生活歴を尊重し、新しい環境での生活を見守り、本人の思いを聴くようにしている。本人が安心して頼ってもらえるような、信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望に耳を傾けながら、事業所の方針としての「出来ること」「出来ないこと」を丁寧に説明し納得していただき、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでの在宅での支援内容を確認し、本人・家族・ケアマネジャー・管理者・現場職員にてカンファレンスを行う。今必要とする支援について十分に話し合い適切なサービス提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者が伝えたいことがあれば、いつでも聴き入れる体制が出来ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の生活歴を尊重しながら、その人らしい生活ができるように、家族にも協力して頂けるような関係を維持している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者本人がどのように日々暮らしてきたのかを、家族からも聴きながら馴染みの人、思い出の場所等への関係が途切れないように努めている。	民生委員が、継続して暮らしぶりを確認するために訪ねる、近所の方が差し入れを持って1日に数回利用者を訪ねて下さるなど、職員は来訪者が関係性を継続できるよう、声掛けや対応に気を配っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係を把握し、良い会話ができるように席替えをし、各利用者が心身の負担なく楽しく過ごせるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了しても必要に応じて本人や家族の相談支援に努めている。介護関係機関から情報を求められたら、家族の了承のもとにおいて提供をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居宅介護支援事業所からの、貴重なサービス内容の情報を頂き、本人とは異なる家族からの意見も参考にしながら支援に努めている。	開設し8年を迎え、利用者の状態変化などに合わせて、その都度、利用者及びご家族などから暮らしやサービスについての思いを聞いている。その内容は、介護記録に記載し、職員間で共有できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や生活環境を尊重しながら、これまでの在宅でのサービス利用の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりを観察し、申し送りやケース記録にて状況を把握し、情報の共有をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者がどのような生活を望むのかを本人、家族、職員で話し合い介護計画を作成している。	計画作成担当者は、利用者や家族などから聞き取った暮らしの要望や情報、職員が支援の中から汲み取った思いを整理し、介護計画書を作成している。その計画は、利用者及び家族などに説明し、情報を共有している。	今後は職員が計画作成担当者と共にアセスメントや評価を行うためにも、介護計画作成のプロセスや目的を職員が学び、より利用者本位のサービスが盛り込まれ、実践されることに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の様子、ケアの実施、気づき等を記録し職員間で共有、ミーティングを開催し今後のサービス提供や介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本来、医療機関の受診は家族であるが、緊急時の対応として、家族が行けない場合には職員が同行している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の保育園児の訪問での交流や、これまでの居住地の住民によって、事業所では提供できない郷土料理を持参され、利用者が楽しまれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事前に利用者の状態を報告し、当日の往診の参考になるように支援している。緊急時は事業所の協力医療機関にも付き添っている。	利用者それぞれが主治医を決め、家族の協力により医療機関での受診が行われている。急変時は、事業所が適切に情報提供し、受診結果については医療機関や家族などからしっかりフィードバックし、支援に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の健康を維持するために、体調の変化に気を付けている。急変時、まずは看護師に相談し指示に基づいて対応し、必要に応じてかかりつけ医への受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院時には、病院の地域医療連携室を通じて情報交換や状態を把握し、退院後の受診について家族と共に説明を聞いている。利用者本人が安心して元の生活に戻れるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の対応は行っていない。 重度化した場合の介護については本人、家族と話し合っている。馴染みの職員や他利用者の声が聞こえる環境の中で支援を実施している。	現在、終末期(看取り)対応は行っていない。利用者及び家族には、対応が難しいことを説明し、重度化が進む利用者に対しては、必要な機会に主治医、利用者、家族と治療方針や意向を話し合い、希望に沿えるよう関係機関を紹介するなど配慮している。	入居者は住み慣れた環境、馴染みの職員のもとで最期を希望する方も多い。入所期間も長期化してくることから、法人や職員間で重度化への対応や看取りなどの取り組みについて更に見聞を深め、体制について検討されることに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時連絡網と対応マニュアルを作成し、各ユニットの壁に掲示しそれに基づいて対応を行えるよう職員に周知徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し、避難経路について問題を発見し、次回の訓練に繋げている。運営推進会議において、避難状況を理解して頂けるように訓練の参加協力をお願いしている。	避難訓練は年2回、利用者及び職員が参加して実施されている。運営推進会議にて地域の協力を得られるよう話し合われているが、実践には至っていない。また、災害時の備品や備蓄なども十分に整備されていない状況である。	火災や地震などの災害時に備えた、協力体制や救助方法をマニュアル化し、それらを職員及び関係者に周知するとともに、実践できるような訓練の機会と備蓄品の整備が早急に望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自分でしたいという本人の思いを尊重しながらいつでも介助できる位置関係にて、必要に応じて適切な介護を行っている。	利用者の思いを尊重しながら気持ちに寄り添い、あたたかい言葉かけに気をつけている。トイレでは、他者から姿が見えないように入り口の手前にカーテンを設置するなどプライバシーへの配慮にも工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各利用者の日々変化する表情を見落とさず、さりげなく発した言葉は聞きもらさず、優しく声掛けし対応を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	健康を維持するように毎日バイタル測定を行っている。一人ひとりのペースで過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた服装で着心地がよく肌にやさしい衣類を家族に用意していただいている。職員は着脱時には本人の好みを大切に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各利用者の体調の変化に応じた食事形態(調理方法)で負担なく食べて頂けるように努めている。	利用者の嚥下機能、咀嚼機能を考慮し安全に食事ができるよう調理されている。家事作業が得意な方や、できる方は、職員の見守りのもと皿洗いや食器拭きなど積極的に取り組んでいる。	家族やボランティアなどの支援者も積極的に巻き込み、季節の地域食材や伝統料理など、利用者の意向や思考を踏まえて食事を楽しむことへの取り組みに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの機能に合わせた調理方法を意識し、安全第一に提供している。また脱水防止に水分摂取量を把握し、お茶に限らず好みに応じて水分補給に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には優しく声掛けし、歯みがきができるよう支援をしている。介助が必要な利用者には口の中に残菜がないかの確認しながら介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンをライフチャートに記録し、自分で出来る下衣の上げ下げ、立位保持機能は最大限に活用していただき、見守りながら羞恥心に配慮し介助している。	『ライフチャート』を作成し、排泄・水分・食事量・バイタルなどを細目に記載し、健康情報が一目で把握できる。また、利用者の水分補給状況と排泄状況を併せて行う事で、排泄の自立に結びつけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	常に水分摂取の必要性を伝えたり軽体操への参加を促している。個々のライフチャートの記録を参考に排便状態を把握し、本人や家族と相談し乳製品などを勧めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を実施している。利用者の、その日の体調や、その時の気分を見て声掛けしている。湯舟には入浴剤を入れて、ゆったりと浸かって頂いている。	利用者の心身状況に合わせた入浴支援を心がけている。プライバシーなどへ配慮して同性の職員が介助するなど、一人ひとりが尊重され清潔保持が図られるよう取り組まれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調に合わせ、居室でも共有スペースでも過ごしやすいよう、室温調節やテレビの音量や加湿器の水量確認を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の飲み忘れ防止に必ず利用者本人やライフチャートにて確認している。また確実に服用したか口腔内の確認にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗いや洗濯物たたみ等の家事手伝いを、本人の申し出により手伝って頂き自分の仕事として認識されている様子。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	個々の要望に沿って外の空気を吸うことができる機会を作っている。近隣の保育園、神社や前庭に出て景色を眺めている。家族の協力によりお盆、正月には念願である自宅への外出をされている。馴染みの美容院へ家族の協力をいただいて通っておられる。	利用者は、職員とともに近隣の公園や神社へ散歩に出掛けたりしている。家族などの協力により、外出する機会が得られている利用者もいるが、利用者がその人らしく暮らしを保ち、生活に意欲や自立へ向けての希望を持つための外出支援の実践には至っていない。	利用者が暮らしを楽しむためにも、一人ひとりの習慣や希望、時々の状況に応じて、介護計画などに意向を取り入れながらともに外出支援に取り組むことで、更なる信頼関係を構築したり、利用者が生き生きと暮らし続けられるよう期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事前に本人や家族に了承を得て、小口現金として管理させて頂いている。本人の好みのおやつを購入したり、近隣のお店へ職員と一緒に買い物に行く支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を取次ぎ、家族や遠方の親戚、知人等と話す機会を大切にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と職員が合作で、各フロアや居室に色塗りのカレンダー等を掲示している。共用空間の温度は利用者の状態を見ながら調節を行っている。	運営推進会議で提案された事業所内掲示物に季節感を取り入れるなどの課題に対して、職員で共有し、早急に取り組み、関係者から高評価されている。日中は居室で過ごすことなく、リビングに集う姿が多く見受けられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の相性や性格、性別、コミュニケーションが取れるかどうかを配慮しながら席の配置を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し、自宅で使い慣れた家具、または趣味の物や本など持参していただき、各利用者好みの居室作りを支援している。	居室にはエアコン及びテレビ、タンスが備え付けられている。利用者が自宅で使い慣れた家具やお位牌、趣味活動の作品など、家族の協力を得て持ち込み、安心して過ごせる居室作りが実践されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各利用者が安心して安全に生活を送れるよう、フロア内での歩行の妨げにならないよう物を置かない、またトイレがどこか解りやすいよう絵図で示す等の工夫をしている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議を有効活用となる取り組み	定期的に行われている会議において、意見交換されている評価内容や提案等は速やかに各利用者やその家族そして職員に開示して具体的な活動に生かしていく。	①隔月に開催されている推進会議には施設の状況を具体的に報告し透明化に努める。 ②またヒヤリハットや事故報告について再発防止対策状況を再検討する機会として、各利用者の生活の向上を支援する職員の資質向上対策に生かしていく。 ③家族の面会時やカンファレンス時は各利用者の生活向上の為に施設への具体的な要望等をゆっくり聴くことに努め、推進会議への情報として報告、業務に生かしていく。	12ヶ月
2	26	チームで作る介護計画とモニタリング	各利用者に関わる全職員の意見が反映する介護計画作りからモニタリング等に努める。	①各利用者に直接支援している現場職員は記録の充実に努め、カンファレンスには各利用者の生活状況や改善策の提案に努める。 ②介護支援専門員は会議において発言しやすい環境を設定する。	12ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。